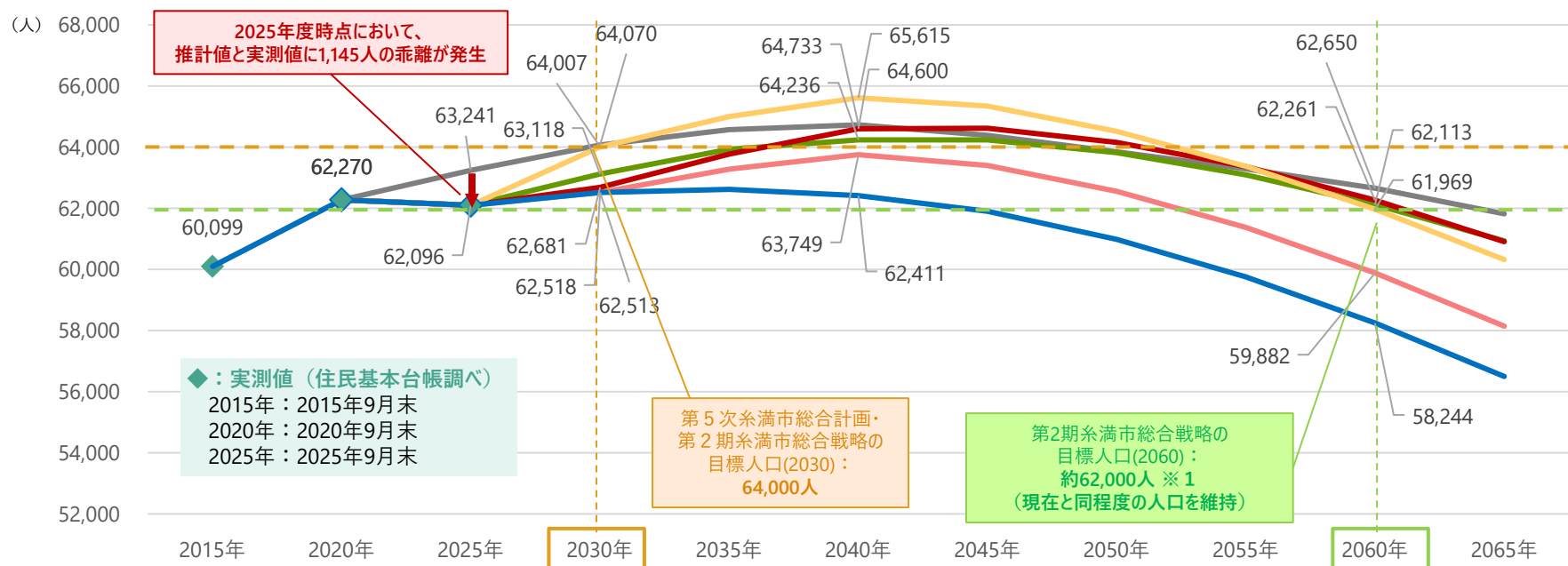


# 1. 糸満市の人口推移・シミュレーション

## 1-1. 目標人口の達成について

- 現行の総合計画基本構想及び総合戦略（令和2年時点修正人口ビジョン）では、糸満市の将来人口について令和12年（2030年）時点で64,000人に到達し、令和42年（2060年）時点では現在（総合戦略策定時：2020年）と同程度の人口（約62,000人）を維持することを目指す旨が記載されています。
- 令和7年時点修正の推計では、2030年時点で64,000人に到達するモデルは「⑤真栄里地区で見込まれる転入者数と目標人口到達を考慮した推計結果」のみでした。また、「②現行の総合戦略と同一条件での推計結果（2025）（以下②）」と「④真栄里地区で見込める転入者数と追加の転入者数を考慮した推計結果（2025）」については、2040年時点で64,000人に到達する結果となりました。（④については次ページで詳述）
- 2060年で現在と同程度の人口（約62,000人）を維持するという目標については、2025年度の推計では②、④、⑤は達成する結果となりました。

糸満市の人口推移及び現行計画におけるシミュレーション



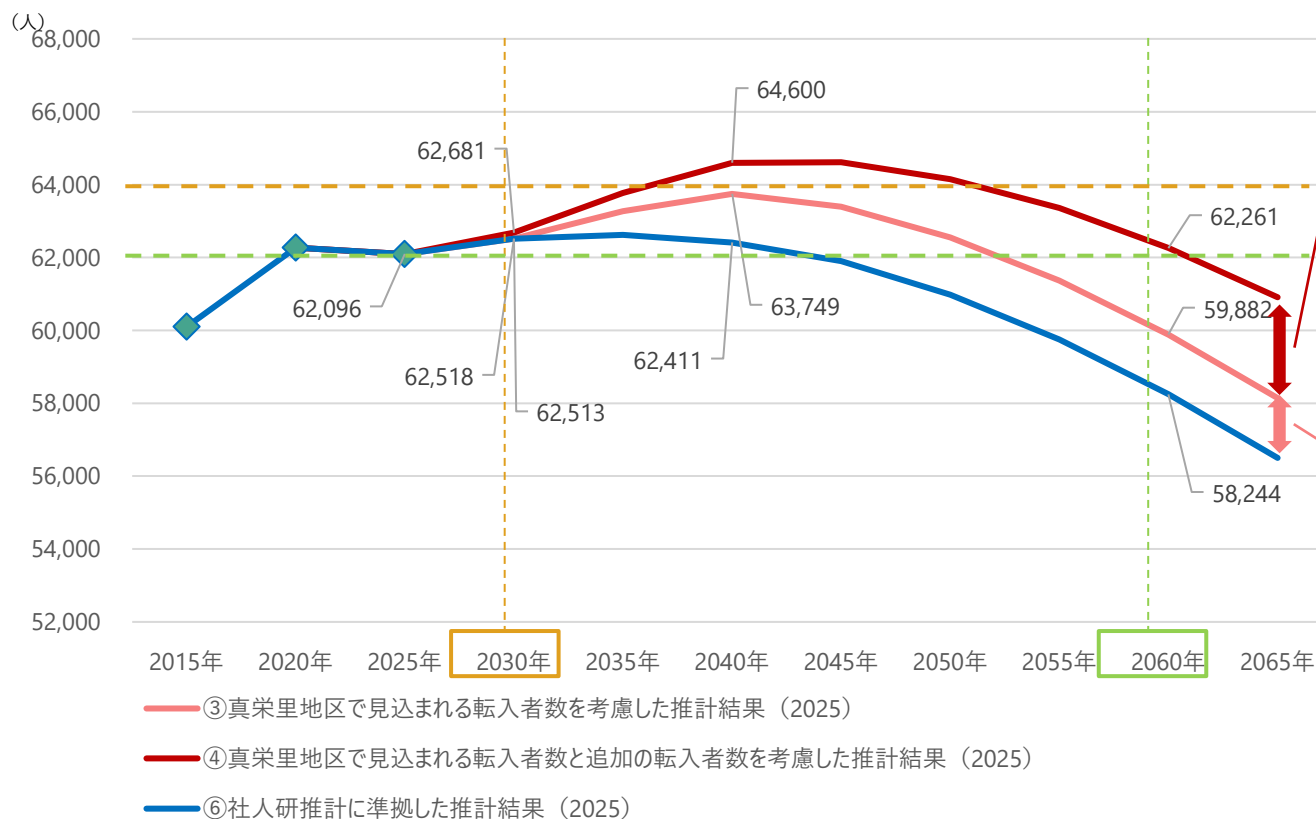
- ①現行の総合戦略における推計結果（2020）
  - ②現行の総合戦略と同一条件での推計結果（2025）
  - ③真栄里地区で見込まれる転入者数を考慮した推計結果（2025）
  - ④真栄里地区で見込まれる転入者数と追加の転入者数を考慮した推計結果（2025）
  - ⑤真栄里地区で見込まれる転入者数と目標人口到達を考慮した推計結果（2025）
  - ⑥社人研推計に準拠した推計結果（2025）
- ※1 計画策定時の2020年の人口を参照し記載

# 1. 糸満市の人口推移・シミュレーション

## 1-2. 真栄里土地区画整理事業での開発の反映について

- 真栄里土地区画整理事業の施行地区内の転入者を考慮した推計のほかに、さらに追加の転入者を想定した推計を策定しております。施行地区内のマンション等建設による転入増加や、区画整理によりできる商業施設・企業があることでの転入増加等を想定し追加しました。
- 追加の転入者数は、2025年から2030年の5年は150人（毎年30人）、2030年以降は各5年300人（毎年60人）を、真栄里地区で見込まれる転入者数を考慮した推計に足し合わせる想定です。

真栄里土地区画整理事業での開発の反映



### 1 追加の転入増加 (② 真栄里土地区画整理事業による転入増加 よりさらに追加)

以下の点を踏まえた追加の転入者数

- ・ 施行地区内のマンション等建設による転入増加
- ・ 区画整理によりできる商業施設・企業があることでの転入増加

各5年ごとの転入加算数	
2025→2030	+150人
2030→2035	+300人
：	+300人

### 2 真栄里土地区画整理事業による転入増加

事業者ヒアリング等を踏まえた推計を基に加算した転入増加

各5年ごとの転入加算数	
2025→2030	+5人
2030→2035	+600人
2035→2040	+598人
2040→2045	+83人
2045→2050	±0人
：	±0人

## 2. 推計に使用する各仮定の解説

- 現行計画では、人口推計の基本的な手法である「コホート要因法」を利用して将来人口を推計しており、①生残率、②出生数、③純移動数（転入者数・転出者数）の3要素を仮定しています。

### 推計に使用する各仮定の解説

#### 1 生残率の仮定

##### 解説

- 任意の人が5年後に生存している確率であり、**自然減**に関する仮定です。
- 国立社会保障・人口問題研究所より性別年齢層別に算定され、自治体別の数値が公表されます。

##### 関連する施策の例

- ✓ 介護予防の推進
- ✓ 健康づくりの推進

#### 2 出生数の仮定

##### 解説

- 5年間に糸満市で生まれた子どもの数であり、**自然増**に関する仮定です。
- 合計特殊出生率や子ども女性比率※によって算定されます。

※ 20歳-44歳の女性人口における、0-4歳人口の割合

##### 関連する施策の例

- ✓ 子育て環境の充実
- ✓ 保育サービスの充実

#### 3 純移動数の仮定

##### 解説

- 5年間の糸満市へ転入者・転出者を合計した数であり、**社会増・社会減**に関する仮定です。
- 性別年齢層別に、「一切人口の移動がなかった場合の人口」と実際の国勢調査人口を比較して算定されます。

##### 関連する施策の例

- ✓ アパート・マンションの建設、空家の利活用による住環境の整備

### 3. 各シミュレーションの推計人口（1/2）

- 現行計画でのシミュレーションモデルを踏まえ、次期計画で採用するモデルの検討を進めてまいります。
- 将来展望編の純移動数で加算する転入超過数は、真栄里土地地区画整理事業による転入超過数を踏まえて加算しております。

#### 各シミュレーションモデルの仮定と推計人口（現状）

推計方法			仮定			数値		
編	#	モデル名	①生残率	②出生数	③純移動数	年度	推計結果	(参考) 現行計画推計結果
将来展望編	1	展望 (真栄里地区反映)	社人研推計の数値 ※ 1	社人研推計の数値 ※ 2	社人研推計の数値※ 4 に、 <b>0歳～64歳の男女の転入超過数を加算</b> （真栄里局作成の推計を参照）	2030	62,518	-
						2045	63,397	-
						2060	59,882	-
	2	展望 (真栄里地区反映 + 追加調整反映)			社人研推計の数値※ 4 に、 <b>0歳～64歳の男女の転入超過数を加算</b> （真栄里局作成の推計を参照） さらに、 <b>全期間で0歳～64歳の男女の転入超過数を加算</b> （2025～2030 毎年30人、2030以降毎年60人）	2030	62,681	-
						2045	64,618	-
						2060	62,261	-
	3	展望 (真栄里地区反映 + 目標人口調整反映)			社人研推計の数値※ 4 に、 <b>0歳～64歳の男女の転入超過数を加算</b> （真栄里局作成の推計を参照） さらに、 <b>2030年の目標人口に到達するまで15歳～39歳の男女の転入超過数を加算</b> （2025～2030年：1,230人）	2030	64,007	-
						2045	65,338	-
						2060	61,969	-
将来推計・シミュレーション編	4	パターン1（社人研推計準拠）		2025年の合計特殊出生率 (2.02) ※ 3 を <b>2070年まで維持</b>	社人研推計の数値 ※ 4	2030	62,513	62,819
						2045	61,897	61,514
						2060	58,244	57,982
	2030	61,796				61,638		
	2045	59,169				58,741		
	2060	53,882				53,285		
	5	パターン2（独自推計）		2025年の合計特殊出生率 (2.02) ※ 3 が <b>2035年に人口置換水準 (2.1) まで上昇し、その後その水準を維持</b>		2030	62,359	61,914
						2045	60,917	59,476
						2060	56,402	54,501
	2030	62,812				63,107		
	2045	62,972				64,422		
	2060	61,630				63,733		

※ 1 社人研推計(R5)の生残率の推計データを活用した（2055年以降は2050年の値を維持することとした）

※ 2 社人研推計(R5)の子供女性性比の推計データを活用し（2055年以降は2050年の値を維持することとした）、そこから合計特殊出生率を算出した

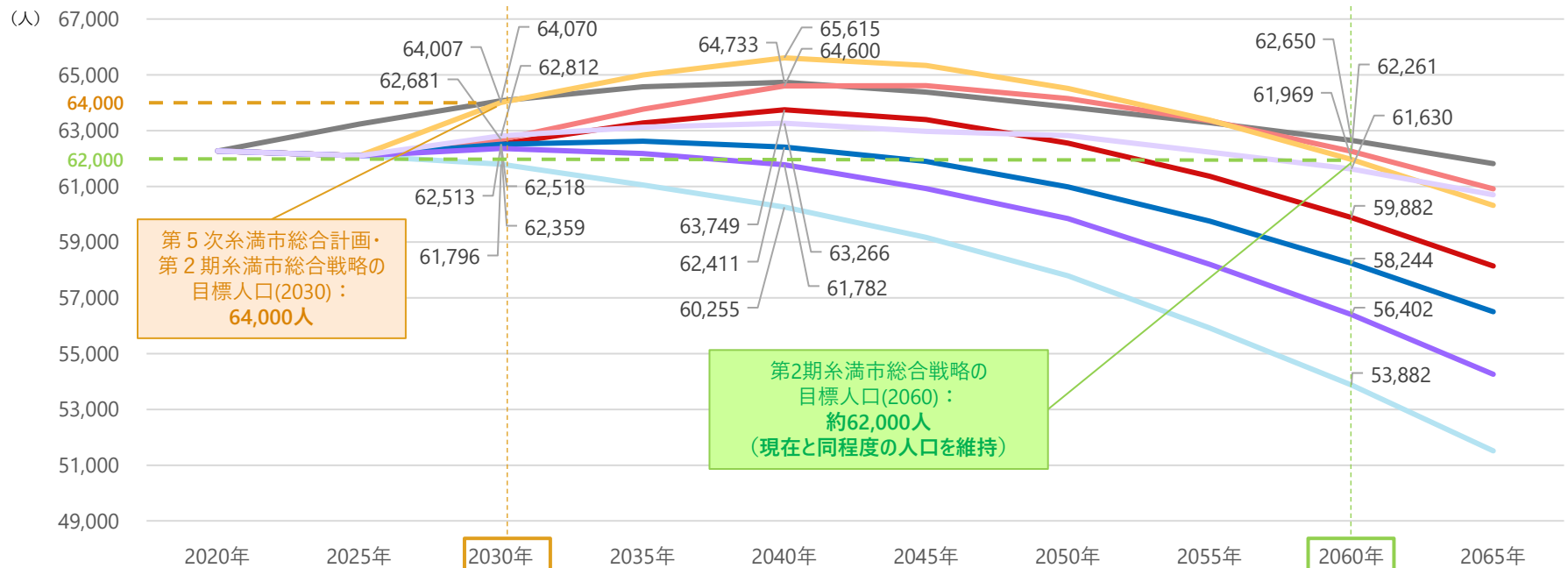
※ 3 人口動態保健所・市町村別統計(H30-R4)の合計特殊出生率の実績データを活用した

※ 4 社人研推計(R5)の純移動数の推計データを活用した（2055年以降は2050年の値を維持することとした）

### 3. 各シミュレーションの推計人口（2/2）

- 「展望（真栄里地区反映＋目標人口調整反映）」以外の全てのモデルが、2030年時点の目標人口である64,000人を下回る想定になっております。

各シミュレーションの推計人口（現状）



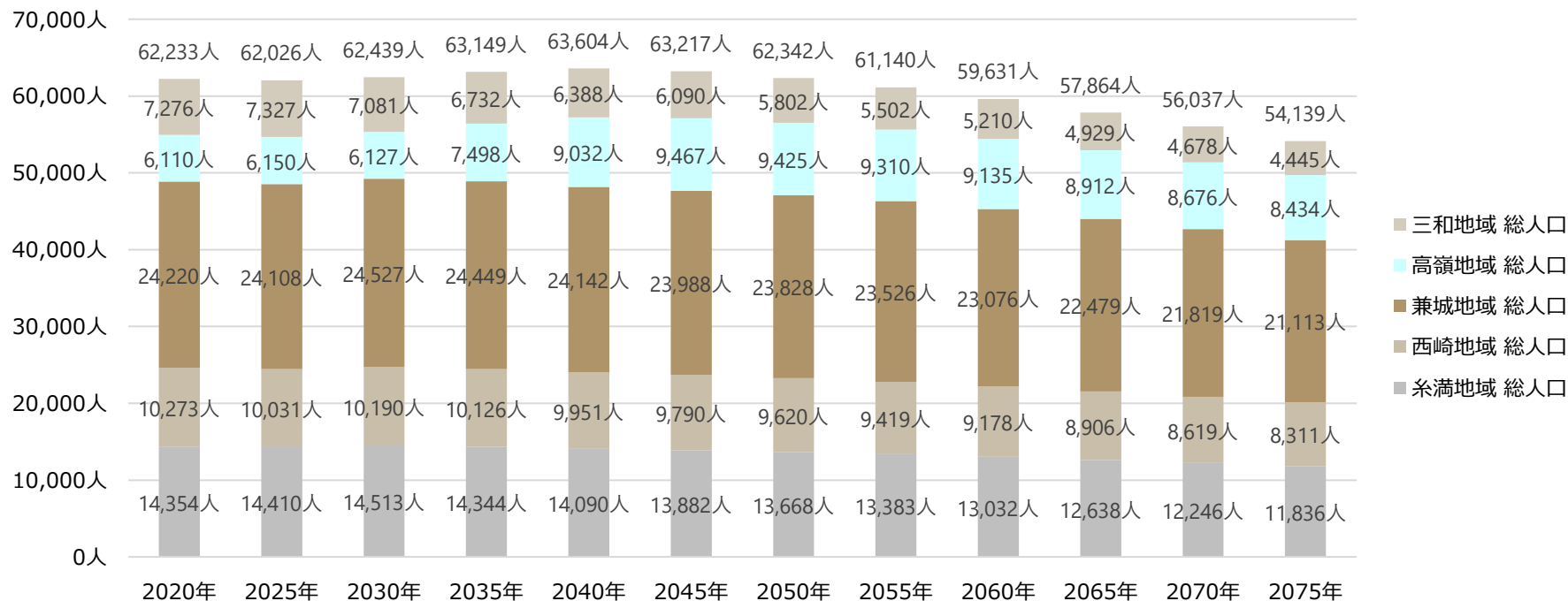
推計方法			
編	#	モデル名	凡例
(参考) 前回数値	-	展望（現行の総合戦略での数値）	
将来展望編	1	展望（真栄里地区反映）	
	2	展望（真栄里地区反映＋追加調整反映）	
	3	展望（真栄里地区反映＋目標人口調整反映）	
将来推計・シミュレーション編	4	パターン1（社人研推計準拠）	
	5	パターン2（独自推計）	
	6	シミュレーション1（パターン1＋出生率上昇）	
	7	シミュレーション2（シミュレーション1＋移動均衡）_前回推計	

## 4. 別添での人口推計/実績について

### 4-1. 地域別人口推計

- 地域別（三和、高嶺、兼城、西崎、糸満地域）での将来人口についても、推計しています。（※1・※2）
- 真栄里土地区画整理事業による転入者数を考慮して計算しております。市外から高嶺地域への転入、市内の高嶺地域以外から高嶺地域への転入の両方を考慮しております。（高嶺地域以外については、高嶺地域への転入見込み人数を引いております。）
- 三和地域は2025年以降、糸満、西崎、兼城地域は2030年以降に人口が減少し始める推計です。特に三和地域の減少率が大きく、2025年から2075年にかけて39.3%の減少が見込まれています。一方、真栄里土地区画整理事業が行われる高嶺地域は2030年から2045年まで人口が増加する推計です。

地域別の将来人口推計



※1 計算方法の都合上、前頁までの市全体の人口推計値と本推計の合計値は一致いたしません。市全体の人口推計は市全体の人口に対してコーホート要因法に基づく計算を行っておりますが、地域別人口推計は各地域別の人口に対してコーホート要因法に基づく計算を行い、それを足し合わせることで市全体の人口を算出しています。

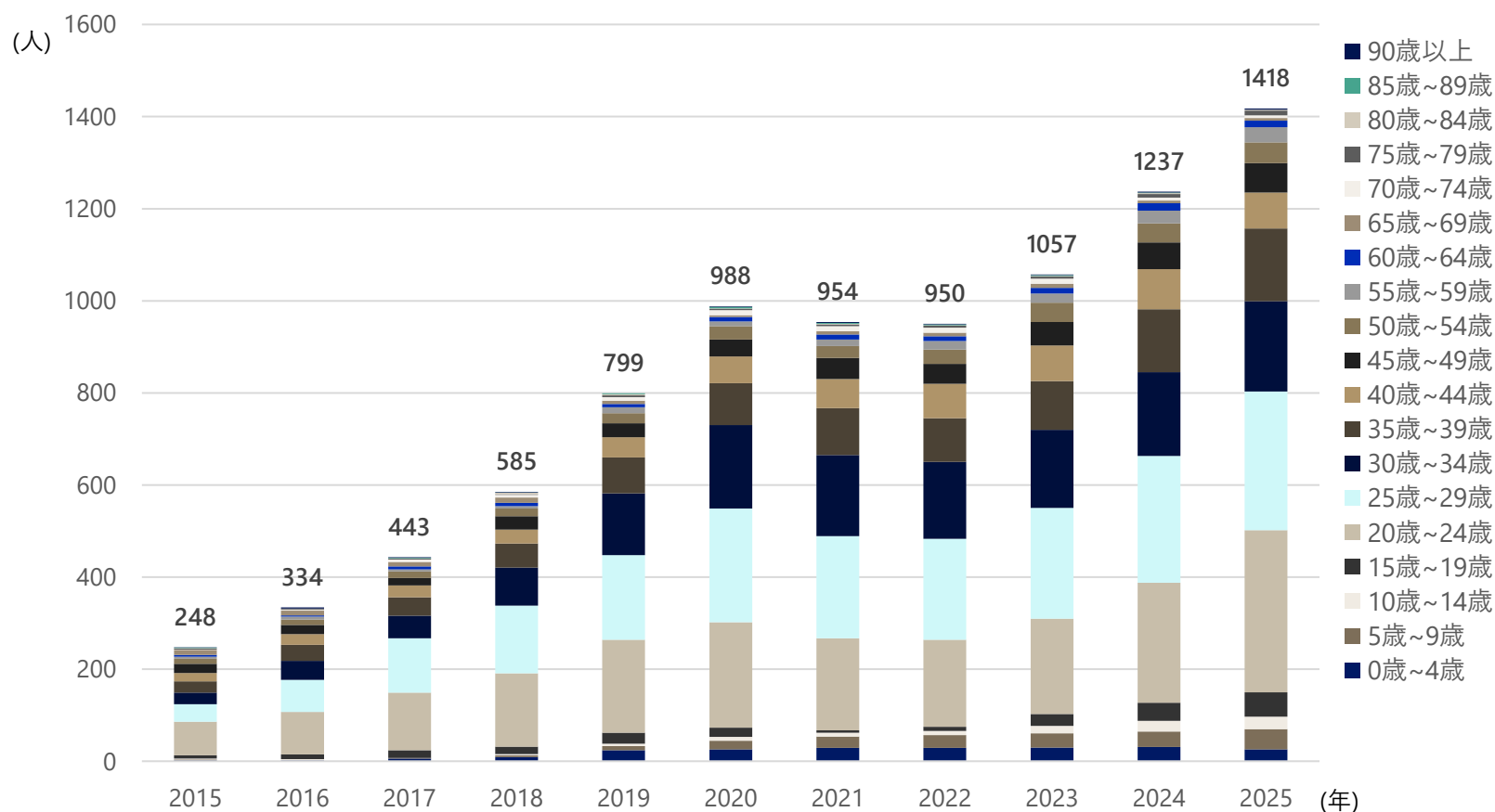
※2 各仮定値（①出生率、②出生率、③純移動数）は、市全体の人口推計で使用した値と、同一の値で設定しております。また、現時点での地域別の人口から将来人口を計算しております。

## 4. 別添での人口推計/実績について

### 4-2. 外国人人口実績

■ 過去10年間の外国人人口の**実績**を、図示しています。特に、生産年齢人口（15~64歳）が大幅に増加しています。

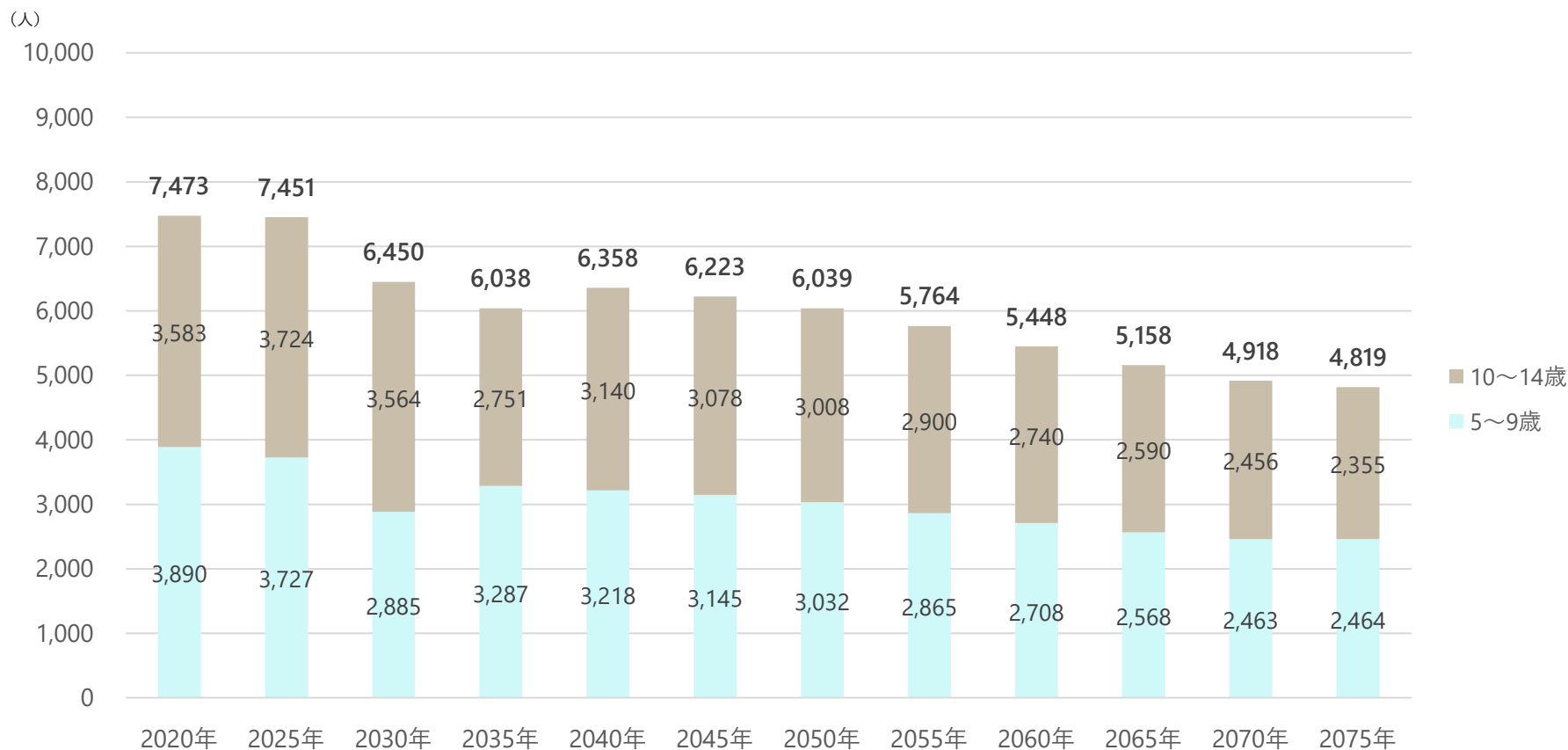
外国人人口推移実績（男女計・2015~2025）



## (参考) 5~14歳人口推計

- 将来推計・シミュレーション編/パターン1（社人研推計準拠）の5~14歳人口（小・中学生の割合が高い世代）の推移は以下の通りです。
- 2035年から2040年までは一時的に増加しますが、それ以外ではゆるやかな減少が予想されます。

5~14歳人口推計（社人研推計準拠）



### ●基本構想における将来人口の記載

#### 第5節 目標人口

第4次総合計画では、令和2（2020）年時点の糸満市の目標人口を63,000人としていました。現在の糸満市の住民基本台帳人口は62,270人（※1）で増加傾向にあり、達成は近いものと見込まれます。このことから第5次総合計画における目標人口を64,000人（住民基本台帳人口）とし、若い世代からも選ばれるまちづくり・住みよいまちづくりを行っていきます。

（※1）現在の糸満市の総人口...令和2年9月末現在の住民基本台帳人口は62,270人（男性31,514人、女性30,756人）です。

### ●総合戦略（人口ビジョン）における将来人口の記載

一方、第5次糸満市総合計画〔基本構想〕では令和12（2030）年の目標人口を64,000人と位置付けています。そこで、糸満市人口ビジョン（令和2年時点修正）では、令和12（2030）年に総合計画における目標人口を達成し、令和42（2060）年に現在と同程度の人口を維持することを目指します。その実現にむけて、第II編以降に示すまち・ひと・しごと創生総合戦略の各種施策に取り組んでいきます。

## (参考) 総合戦略基本姿勢・毎年の増加目標の書きぶりの想定

### ●現在の総合戦略での記載

#### 【基本姿勢】

- ① まちの魅力を高め定住を促す
- ② 市外からの転入および市出身者のUターンを促す
- ③ 自然増（出生）を維持・向上させる

#### 【毎年の増加目標】

- ・令和12（2030）年までは、15歳～39歳の男女が、毎年100人ずつ転入超過する
- ・令和13（2031）年以降は、15歳～39歳の男女が、毎年60人ずつ転入超過する

### ●人口ビジョン（令和7年時点修正）での記載の想定

#### 【基本姿勢】

- ① まちの魅力を高め定住を促す
- ② 市外からの転入および市出身者のUターンを促す
- ③ 自然増（出生）を維持・向上させる

#### 【毎年の増加目標】

- ・2025～2030年：0歳～64歳の男女が、毎年30人ずつ転入超過する
- ・2030年以降：0歳～64歳の男女が、毎年60人ずつ転入超過する

#### Point

基本姿勢は修正しない想定です

#### Point

事業者ヒアリング等を踏まえた推計を基に計算した真栄里土地区画整理事業による転入増加については、増加目標ではなく前提条件となるため、こちらには記載しない想定です。  
追加で加算する転入者数について、増加目標として設定する認識です。